

平成24年

冬の交通安全運動

北海道実施要綱

11月15日(木)～11月24日(土)



降雪に伴う冬道路面でのスリップ事故の防止をはじめ、以下の活動等を推進する

運動の 重点

- 子どもと高齢者の交通事故防止
- 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- 凍結路面等のスリップ事故の防止
- 交差点の交通事故防止
- 飲酒運転の根絶

全道統一行動日／11月15日(木) セーフティコール

主催

北海道、北海道警察、北海道教育委員会、札幌市、市町村、公益社団法人 北海道交通安全推進委員会
財団法人 北海道交通安全協会、社団法人 北海道安全運転管理者協会

ストップ・ザ・交通事故死

《めざせ 安全で安心な北海道》



運動の目的

交通安全を自らのことと捉え、交通ルールの遵守や思いやりのある交通マナーの実践が主体的に行われるよう、道民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図る。

運動の進め方

道、道警察、市町村をはじめ、関係機関・団体等は、緊密に連携し、体系的かつ効果的な交通安全運動を展開するとともに、参加・体験・実践型の交通安全教育を推進する。

通年運動 7大セーフティキャンペーン

- 高齢者事故防止
- 居眠り運転防止
- 自転車走行ルール・マナーアップ
- シートベルト全席着用
- スピードダウン
- 飲酒運転根絶
- デイ・ライト実践



運動の重点

子どもと高齢者の交通事故防止

運転者は

子どもや高齢者を見かけたら、徐行するなど思いやりのある運転をしよう。

家庭では

子どもと一緒に通学路を歩くなどして手本を示し、交通ルールを身につけさせよう。

学校などでは

登下校時間帯に通学路での交通安全指導を徹底しよう。高齢者の安全な横断や通行などを手助けしよう指導しよう。

高齢者は

参加・体験型の講習会などに積極的に参加し、自分の身体機能の変化を認識して、安全な行動に努めるとともに、夜光反射材を身につけよう。

地域では

交差点などで、子どもや高齢者を見かけたら声をかけ、安全な横断を手助けしよう。

夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止

運転者は

夕暮れ時から夜間には、歩行者などの発見がしにくくなるので、交差点では徐行し、しっかり安全確認しよう。

家庭では

夕暮れ時や夜間に外出するときは、明るい服装と夜光反射材を着用しよう。

学校などでは

自転車の通行方法や夜間における前照灯の点灯など、自転車の正しい利用の仕方を身につけさせよう。

職場では

デイ・ライト(昼間点灯)の実践を徹底しよう。

地域では

夜光反射材の普及と着用の促進に努めよう。冬道での自転車の運転を控えよう。

凍結路面等のスリップ事故の防止

運転者は

路面状況が刻々と変化することを認識し、スピードを控えた運転をしよう。

家庭では

冬道の危険性や特徴について話し合うとともに、早めに冬タイヤに交換しよう。

学校などでは

雪道、わだち、凍結路面などの危険について理解させ、安全な歩行について指導しよう。

職場では

朝礼や会議などの機会を利用し、道路情報を共有するなど、安全運転を実践しよう。

地域では

冬道の危険な場所や交通量の多い交差点などで、スピードダウンやスリップ事故防止を呼びかけよう。

交差点の交通事故防止

運転者は

交差点やその付近は、事故多発地帯であることを認識し、特に注意して運転しよう。

家庭では

交差点などにおける安全な歩行や走行について、家族みんなで話し合おう。

学校などでは

交差点では交通事故が多いことを認識させ、横断の際は特に注意しよう指導しよう。

職場では

交差点やその周辺を走行するときは、特に注意して走行しよう指導しよう。

地域では

交差点やその周辺において交通事故防止を呼びかける街頭啓発を実施しよう。

飲酒運転の根絶

運転者は

飲酒運転の危険性や責任の重大さをしっかりと認識し、飲酒運転を根絶しよう。

家庭では

飲酒運転の危険性、飲酒運転による交通事故の悲惨などを話し合い、家族ぐるみで飲酒運転を根絶しよう。

学校などでは

飲酒運転の危険性や責任の重大さをしっかりと教え、家庭でも話し合いの機会を設けるよう指導しよう。

職場では

企業の責任として、ハンドルキーパー運動を展開するなど、飲酒運転の根絶を徹底しよう。飲んだら乗るな、飲むなら乗るなを徹底しよう。

地域では

酒類を提供する飲酒店などでの運転者への酒類提供の禁止を呼びかけよう。

居眠り運転防止 ～ 2時間毎に休憩しましょう ～

デイ・ライト運動を実践しましょう。